

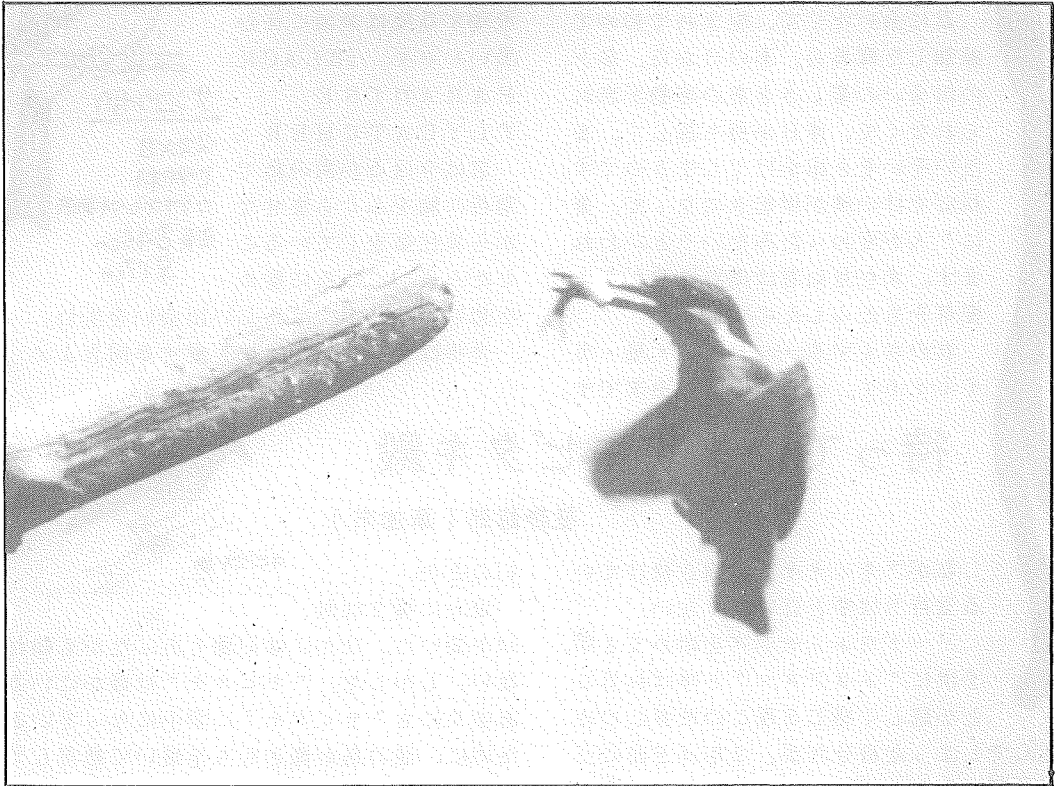


1986・5

第 24 号

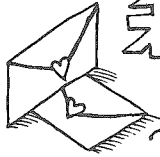
しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部

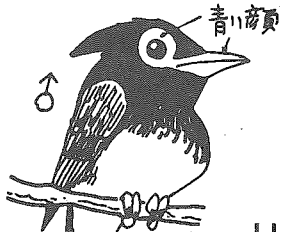
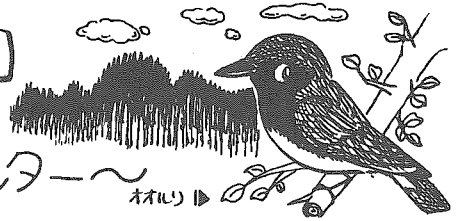


カワセミ（カワセミ科） 古い話だが、今は三面舗装されて見るすべもない見沼用水、ここのカワセミにはいろいろの思い出がある。この鳥を見るために土手に穴を掘り厳冬に防寒具を着て長時間入っていた事、撮影をするためいろいろな機材を考えてみな失敗した事。この鳥、最初は忍者かと思った。眼の前にいたのがいつの間にかいなくなるからだ。失敗の連続だった。だがこの鳥のおかげで多くの友だちができた。写真家、板前、教員、公務員等々、今現在の多くの友だちの基礎である。
(写真と文・中村重勝)

私の片思い



～まだ見ぬ君へのラブレター～



私達には、今年こそ見たい、今年こそ会いたいと日ごろから思いこがれている彼や彼女がいます。今月号は、そのあこがれの君へのラブレター特集です。どうか、この熱き想いが少しでも届きますように……。

サンコウチョウ君へ

岡安征也（北本市）

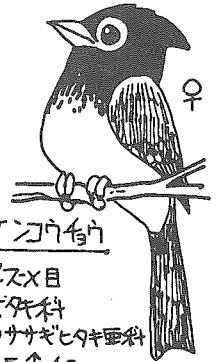
君に会いたくて、生まれて初めて参加した探鳥会。あの日から、鳥との出会いの楽しさとあの感動が忘れられなくて、休日が待ち遠しく、またいそいそと出かけてしまうのです。ねぼすけの僕が早起きになって、妻に“人が変わったみたい”といわれます。未だ見ぬ君は確かに我が家に変革をもたらしたのです。

君のさえずり 一月・日・星・ホイホイホイ。三光鳥の名の由来です。

飛翔する姿は楽園に住む黒いヒタキ。(BLACK PARADISE FLYCATCHER)。

君は今はるか南の島で期待に胸をふくらませながら旅仕度をしていることだろう。こころに秘めた想いの深さがすばらしい出会いを生む。

今年はずひ会おう！旅を愛する同志よ！



サンコウチョウ

スズメ目
ヒタキ科
カササギヒタキ亜科
全長 ♂45cm
♀17cm

待っていますキビタキ殿

星野好郎（草加市）

私が“キビタキ”に抱き続けている気持ちは夢と言いたくない。

バードウォッチングを始めて3年、子供に“トリアタマ”と呼ばれることが嬉しく感じる程この世界にのめり込んでしまった自分だが、2年ほど前に三峰山で聞いた“キビタキ”のあの美しい囀りが、その切っ掛けとなったのだと思う。春が過ぎ初夏ともなる頃、あせり気味に週末を野山で過ごすことになる。

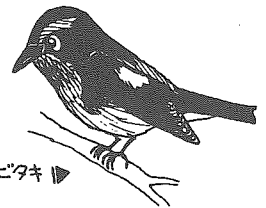
図鑑やビデオで何度もくり返し見た、あの黒と黄色のコントラストの美しい姿が、今年こそ見られたらどんなに楽しいことか、嬉し

いことか。

確かに囀りは何回か聞いた。なかには幻聴もあったかも知れない。しかしだ。“キビタキ”は確かにいる。あまりにも“キビタキ”に夢中になっているために、他の鳥が焼きもちを焼いて妨害しているのかも知れない。

鳥を見ている時のあの真空状態に近い気分は最高だ。鳥なら何でもよいと思っているのだが、“キビタキ”のことが頭に浮かぶと、どうも気持ちが落ちつかなくなる。

今年こそ、是非とも“出合い”の夢を果たし、この気持ちを整理したい。

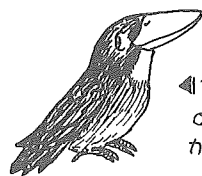


キビタキ

今年こそアカショウビン

全身真っ赤で嘴が大きい素敵な鳥——というイメージはあるのですが、残念ながら僕はまだこの鳥を見たことがありません。カエルの声をアカショウビンと間違えたり……。あまり相性が良くないのかもしれませんが。

見たくても、部活などで忙しく、出かけられなかったのですが、今年はひまをみつめて秩父の方に行きたいと思います。でも、相性



◀アカショウビン……
のつもりでいたら
カモハシになった

近藤 崇
(浦和市)

が良くないので、ひょっとしたらまた見るのはお預けになるのでは……。

しかし、いくら相性が悪くても、見づらい鳥でも、今一番会いたい野鳥、それはアカショウビンです。

あのトケンに会いたい

田中 寛夫 (東京都)

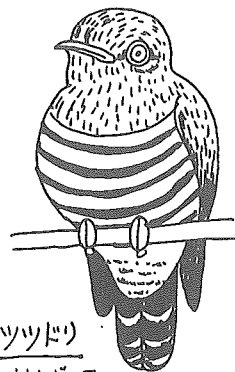
今夏、是非会ってみたい。どうしてなかなか姿を見せてくれないのでしょうか、あなたの住所は判っているのに。恥ずかしいの、そんなはずないよね。私は期待しているんだよ。遠くから見ているとよく似ているが、私にラ

ブコールを送っておくれ。そうすれば直ぐにあなただと判る。初夏、早朝の

清しいカッコウ、日中のホトトギス・ジュウイチ、午後の静けさの中でのツツドリと、私の恋しいあなた

たちよ、私に会って欲しくないか。この夏、高原で、草原で、あるいは山々で会いたい。カッコウとオオヨシキリ、ホトトギスとウグイス、ジュウイチとオオルリ、ツツドリとセンダイムシクイ、ということはその鳥の多い地域に行けばいいのでしょうか。しかしどうして托卵するのでしょう。まして色まで似せて同数にするとはい

きと会えるだろう。そう私は願っている。愛するトケンたちよ。



ツツドリ
・ホトトギス目
ホトトギス科
全長33cm



カッコウ
・ホトトギス目
ホトトギス科
全長35cm

×モ

- サンコウチョウ = 北本市の農事試験場跡地でよく会える。7月6日に探鳥会を予定。
 キビタキ = 三峰神社付近ならまず確実。秩父鉄道三峰口下車、秩父湖・栃本行バスで大輪下車、徒歩10分でロープウェー山麓駅へ。山頂駅まで約7分。
 アカショウビン = 少ない。稀。秩父の荒川支流に住むという。
 トケン類 = カッコウは渡良瀬遊水池でよく会える。東武日光線柳生駅下車、徒歩10分。他のトケン類は、秩父の山々で会える。(トケン類とは、ホトトギスの仲間のこと)
 (カット・サンコウチョウとトケン類は比企裕、他は鈴木加代子)

台湾的鳥類アラカルト(II)

榎本秀和(鴻巣)

4. 鳥中的水蓮花 (鳥世界の一^だ朵の水蓮花) = サギ科、トキ科
5. 童話中的送子娘娘 (おとぎの国の赤ちゃん運びの女神さま) = コウノトリ科
6. 体識尊卑飛行有序的 (隊伍整然の渡り鳥) = ガン・カモ科
7. 速与力的象徴 (スピードと力の象徴) = ハヤブサ科 (続く)

はじめての軽井沢

私は農村に生まれ、学生時代からあちこちの山に登り、自然には親しんできたつもりであった。しかし、昨年ふとしたことから一家ぐるみで野鳥の会に入り野鳥の図鑑や写真集を見るにつけても、いままで見たこともないあるいは名前も知らない鳥が殆どで、いったいこんな鳥がどこにいるのだろうか、と調べていた。とくに、ヒレンジャクやキレンジャクのような鳥に至っては、いつになったら見ることができるのだろうか、とむしろ悲観的な気分であった。

しかし、この軽井沢探鳥会は私の気持ちをいっぺんに楽観的にしてくれた。ミソサザイ、キクイタダキ、ゴジュウカラ、ハギマシコ、エナガ、ヒガラ、コガラ、アオゲラなど見たことのない鳥が次から次へと、息継ぐ暇もないほどに現れたのである。とくに、鳥合わせのあとでヒレンジャクを観察していると、コゲラが現れて、すぐ近く(3mくらい)の木の幹に止ってわれわれの目をはばかることも

箕輪真澄(浦和市)

なくつつき始めたのでこれも存分に観察することができた。鹿を追うものは山を見ず、という

諺があるが、思うにこれまでの私は山を追って鳥を見ず、ということだったのであろう。

この日歩いたコースのなかには、開発中の分譲別荘地(と言ってもせいぜいアメリカの地方都市の中流どころの住宅といったところであるが)があったが、このような自然が分譲地として小さな区画に切り売りされ、野性動物の棲息環境が破壊されているのも目のあたりに見た。

残念ながら、この探鳥会ではキレンジャクを見ることができなかった。しかし、このことは再びこの地を訪れるための口実になるわけで、次の軽井沢探鳥会にも参加し今度こそキレンジャクにお目にかかりたいものである。



(写真・吉本富美子)

き抜け、何もない白い部屋を一層寒々と佇し

どこかに消えた梟

戦後、新宿の都営戸山アパートに入居した頃は、まだ鬱蒼とした木が何本か残っており、夜になると梟が鳴きました。その声は冷いコンクリートの壁をつ

吉本富美子(清瀬市)

くさせたものでした。

やがて時は移り、その木も伐り払われて、どこかに消えたと思った梟は、いつしか私の胸奥深く、もやもやした影となって、何故か気になる鳥となっていたのです。

ところが先日、思いがけなく先輩に案内して頂いて、お目に掛ったトラフズクの、私を見据えて妖しく光った赤い眼は、きっと私の来し方を、人生を、一瞬のうちに見透したに違いないと思われ、今度は現実の姿となって私の脳裏に棲みついてしまったようです。

1986年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

1月15日全国一斉にガンカモ調査が実施されました。県内では、延べ45人の方に参加していただき調査が行なわれました。

結果は次ページの表の通りです。今年のカモの渡来数は全般的に昨年よりやや少なかったようですが、その中ではコハクチョウとト

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

モエガモは例年以上に多く、この調査を始めて以来最高の渡来数となりました。特にトモエガモは久喜菖蒲公園で159羽という関東では珍しい程のまとまった数の群れが記録されました。調査員の皆様ごころうさまでした。

種名	調査地	荒川	森林公園	大麻生	狭山湖	久喜菖蒲公園	吉見百穴湖	阪東大橋
コハクチョウ				○				○
オンドリ			○					
マガモ	○	○			○	○	○	○
カルガモ	○	○			○	○	○	○
コガモ	○	○			○	○	○	○
トモエガモ			○		○	○		○
ヨシガモ					○	○		○
オカヨシガモ								○
ヒドリガモ	○				○	○	○	○
オナガガモ	○	○			○	○	○	○
ハンビロガモ	○					○	○	○
ホシハジロ	○				○	○	○	
キンクロハジロ	○				○	○	○	
ホオジロガモ					○			
カワアイサ								○

野鳥情報

ウグイスの初鳴き ◇3月3日、所沢市中新井の自宅庭で(阿久沢和子)。◇3月8日羽生市砂山で(浅田徳次)。◇3月8日鴻巣市大間の雑木林で2羽が競いあうように鳴く(榎本登志枝、みち子)。◇3月10日、鳩山町で(水村 実)。◇3月11日、浦和市上木崎で(榎本豊松)。◇3月13日浦和市岸町の住宅街の繁みで(海老原美夫)。

イワミセキレイ ◇1月30日、所沢市中富の雑木林で1羽。(県内初記録)

オジロビタキ ◇2月15日、川越市今福の雑木林で♀1羽。(県内初記録)

コハクチョウ ◇越谷市西新井で85年末より3月初旬まで4羽越冬。◇2月23日、川本町明戸で54羽(成鳥34羽幼鳥20羽)。3月25日10羽を残し北へ旅出つ(今井明巨)。

ベニマシコ ◇2月23日、熊谷市大麻生の森で♀1羽(今井明巨)。

ウソ ◇3月1日、秩父の大野峠で2羽(中島康夫、郁夫)。

ホオアカ ◇3月1日、大宮市丸ヶ崎の田圃で1羽(中島郁夫)。

ハギマシコ ◇3月3日、飯能市の林道2号線で30羽(中島康夫、郁夫)。

オオタカ ◇3月3日、坂戸市高麗川沿で1羽(水村 実)。◇3月9日、川本町明戸

で1羽(今井明巨)。◇3月21日、日高町巾着田で2羽以上(藤本和典)。

カイツブリ ◇3月5日、浦和市の白幡沼で巣作り始める(海老原美夫)。

カワウ ◇3月17日、浦和市の芝川、念仏橋上流で1羽(草間和子)。◇3月27日、浦和市の芝川、吉野新橋下流で7羽(大武昭雄)。

ツバメ ◇3月18日、坂戸市の多波目で5羽(水村 実)。◇3月27日、浦和市秋ヶ瀬で2羽(福井 亘)。◇3月27日、志木市柏町で1羽(藤原寛治)。

メジロのさえずり ◇3月19日、浦和市岸町の庭木の梢で(海老原美夫)。◇3月20日朝霞市の城山公園で(藤原寛治)。

イワツバメ ◇3月21日、日高町の巾着田で4羽以上(藤本和典)。

オジロワシ ◇3月21日、日高町の巾着田で1羽(藤本和典)。

ミサゴ ◇3月21日、日高町の巾着田で1羽(藤本和典)。

ヨシガモ ◇3月21日、熊谷市の荒川大橋上流でオナガガモ群れ中に1羽(山口 博)。

カヤクグリ ◇3月22日、蓮田市の黒浜沼で1羽(中島康夫)。

ヒレンジャク ◇3月26日、熊谷市原島で12羽(今井明巨)。◇3月27日、浦和市秋ヶ瀬のビクニックの森で3羽(福井 亘)。◇4月1日、同地で16羽(山部直喜)。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以
下=50円

5月3日(祝) 北川辺町 渡良瀬遊水池

— ヨシキリのコーラス響く渡良瀬 —

午前9時東武日光線柳生駅前集合(浦和8:05→大宮8:11→栗橋8:41東武線乗換8:52発→柳生9:02着)。午後2時ごろ解散。シギ、チドリの中継地。コヨシキリやオオヨシキリの大コーラスを聞きます。(担当=中島康夫、浅田徳次、榎本秀和)

5月4日(日) 浦和市 秋ヶ瀬公園

— ムナグロ、コムクドリ歓迎会 —

午前9時浦和駅西口バスロータリー集合。午後1時ごろ解散。田んぼには夏羽のムナグロやアマサギが、新緑の林ではコムクドリが見られます。(担当=海老原美夫、福井恒人)

5月5日(祝) 寄居町 鐘撞堂山

— 新緑の山にオオルリの声 —

午前9時寄居駅北口集合(秩父鉄道熊谷8:28発→寄居8:56着/東武東上線川越7:50発→森林公園乗換→寄居8:45着)。午後2時ごろ解散。キビタキやオオルリ、サンバにも会えるかも。(担当=田村照治、石井生高、萩原正二、小淵健二)

5月10日(土) 栃木県矢板市 篝川

— そうっと訪ねます。チョウゲンボウ君

午前6時20分大宮駅中央改札口前集合。(大宮発6:36→野崎8:37着、又は、新特急なすの1号大宮発7:17→矢板8:43着乗換8:50→野崎8:55着。運賃大宮→野崎片道1,700円、特急料金片道1,200円)。午後2時頃に現地解散。チョウゲンボウが4組ほど営巣しています。ヤマセミやカワセミも期待できます。(担当=中島康夫、楠見邦博、草間和子)

5月11日(日) 熊谷市 大麻生(定例)

— 春真っ盛り的大麻生 —

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(秩

父鉄道熊谷9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。コアシサンが飛び、キアシシギ、コチドリ、トウネンにも会えるかな。(担当=鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

5月18日(日) 浦和市 三室地区(浦和市

市立郷土博物館共催・定例)参加費無料。

— 緑まぶしい見沼の斜面林 —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。森からカッコウの鳴き声、芝川には、キアシシギやイソシギ。(担当=楠見邦博、森本國夫、福井恒人)

5月24日(土)夜~25日(日) 軽井沢

— 軽井沢は夏鳥のオンパレード —

夜行日帰り。24日22:30上野駅一階中央広場ジャイアントバンダ前集合。途中駅からの乗車も可。(急行妙高号上野発23:58→大宮0:27→上尾0:36→桶川0:41→熊谷1:05→高崎2:00→軽井沢着2:56)費用(上野→軽井沢、片道2,300円+急行券900円。大宮→軽井沢、片道1,700円+急行券900円。他にタクシー代少々)午後2時頃現地解散。夜明けとともに、オオルリ、クロツグミ、キビタキなどの大コーラス。小瀬林道から野鳥の森へと7~8kmは歩くので足元はしっかりと。朝食、できれば昼食、水筒、雨具持参。(担当=中島康夫)

6月1日(日) 鳩山町 赤沼林業地

緑濃い森林ウォッチング。(鳩山町中央公民館共催、参加費無料)午前8時30分東武東上線坂戸駅北口又は、午前9時鳩山町中央公民館集合。(朝霞台7:49→川越8:08→坂戸8:22着/武蔵浦和7:26→大宮7:35→川越7:54着、東上線へ乗換え。坂戸駅発8:42大橋行きバスで役場前下車、徒歩1分)12時ごろ解散。(担当=海老原美夫)



探鳥会報告

3月8日(土) 所沢市 狭山湖

人 66人(東京支部約50人) 天気 晴

鳥 カイツブリ カンムリカイツブリ アオサギ オンドリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ カワアイサ トビ オオタカ コジュケイ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種)東京支部と合同探鳥会。夏羽のカンムリカイツブリを間近で見られた。カモは1,000羽位と大分少なくなっていた。東京支部の皆さん、ありがとうございました。

3月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 13人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ コジュケイ イカルチドリ ハマシギ イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種)春の陽気に誘われて、コースを変更。大麻生から川本町の明戸へピクニック。広い水面に54羽のコハクチョウが静かに休んでい

た。帰り仕度のカモ200羽には、来年も元気で来るようにと別れの挨拶をした。

3月16日(日) 浦和市 三室地区

人 47人 天気 晴 鳥 コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ トビ ハマシギ クサシギ イソシギ タシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(33種)4月上・中旬の暖かさにヒバリは天高く舞上がり、ホオジロは胸を張って囀っていた。そして道端には、青いジュウタンのようなオオイスノフグリの可憐な花が。

3月21日(金、祝)北川辺町 渡良瀬遊水池

人 65人(栃木県支部35人) 天気 曇後晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ セグロカモメ キジバト ヒバリ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種)栃木県支部と合同探鳥会。強風の中、チュウヒがアシ原すれすれに何度も飛んで楽しませてくれた。栃木県支部の皆さん、お世話になりました。

3月23日(日) 大宮市 清河寺周辺

大雪のため中止。

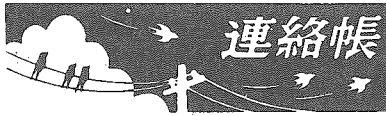
会員の声

昨日2月22日(土)午前11時半頃、公園の樹に野鳥の群れを見つけました。ちょうど双眼鏡を持っており、のぞいたところ、形のいい嘴は黄色く、黒い羽根に白斑のある鳥でした。9羽か10羽でした。帰って図鑑をみたら「イカル」でした。今日は、入間川昭代橋以南の河原の畑でツグミを見つけました(ムクドリと区別がつかしました)。少しずつですが、鳥の種類が覚えられてきて楽しみです。正藤憲一郎(狭山市)

野鳥観察会

狭山市立中央児童館主催

5月25日(日)狭山市入間川。支部リーダーが指導。狭山市以外の人も、大人でも参加OK。参加費無料。午前8時50分西武新宿線入間市駅西口または午前9時中央児童館集合。12時ごろ解散。昭代橋下流の川原では、オオシキリとホオジロの競演にカワセミも登場。



第2回総会のお知らせ

第2回総会を次の通り開催する予定です。

日時・昭和61年6月8日(日)午後1時受付
開始

場所・埼玉県熊谷福祉センター(熊谷市箱田
5丁目6番2号、電話0485-21-5421代)

議題・昭和60年度事業報告および決算について、昭和61年度事業計画および予算について、役員選出について、その他。

くわしくは本誌6月号をご覧ください。会員の総意による、より良い支部活動のために、1人でも多くの会員のご参加をお待ちします。

夏鳥分布調査にご協力を

県内野鳥分布調査は、早くも3回目を迎えます。5月10日から7月10日の間、あなたのフィールドでは、どんな鳥がどのくらい観察されるでしょうか。何か所でも、あるいは鳥の種類が少なくとも貴重なデータとなりますので、どこに、どんな鳥が、どのくらいいたかを教えてください。その方法は、①同封のはがきによるもの、②メッシュ地図と調査票によるもの、の2通りです。①の場合は、料金受取人払いですから、切手をはらずに、記入したはがきをポストにどうぞ。②の方もむずかしいものではありません。ご希望の方は資料をお送りしますので、調査予定地、住所、氏名を研究部までお知らせください。

変りゆく埼玉の自然を明らかにする為に、夏と冬に生息する野鳥の分布を調べ、基礎的データを積重ねて行くものです。ご協力をお願いします。

訂正します

先月号の野鳥情報中、タマシギ・「越谷市」西和田とあるのは、「越生町」の誤りでした。

会員数は

4月20日現在700人です。

役員会の報告

3月9日(熊谷市) ①評議員会、事務局、各部の報告、②6月行事、③SAVE THE BIRDS 探鳥会、④総会、⑤埼玉新聞連載、⑥その他。次回は4月12日、熊谷市で。

事務局日誌

3月5日 NHK浦和局、15日(土)11:50「くらしの情報」で探鳥会情報の放映について打合せ。4月1日にも、12日放映分について。

3月12日 狭山市立緑の相談所、パネル返却に来局。

3月22日 『しらこぼと』4月号発送準備作業(ボランティア5名)、29日袋詰め作業(6名)、31日発送。

3月23日 鳩山町中央公民館にて、共催行事打合せ。



先日、銀座の画廊で、栃木の鳥仲間トム・ミラーご夫妻の個展が開かれ、行ってきました。トムさんの自然木を活かした味わいのある家具、みどりさんのおおらかなぬくもりのある器に接し、心の休まるひとときを過ごしました。(中島康夫)

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正清)

『しらこぼと』

1986年5月号(第24号)
発行人 今井昌彦

頒価100円(会費に含まれます)
発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990
印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)